

[13] 延岡市小体連

(学校数27校 児童数6,288名)

I 年間事業

	事業名	事業内容	会場
11月12日 (木)	第1回理事会	○ 授業研究会事前研 ○ 延岡市小体連体力向上について	恒富小
12月11日 (金)	第2回理事会	○ 研究授業 3年 ゲーム(ゴール型ゲーム:タグラグビーを基にした易しいゲーム) ○ 授業研究会	南方小
2月19日(金) 予定	第3回理事会	○ 年間事業反省	恒富小

II 事業部のあゆみ

1 器械運動教室

- 例年、マットや跳び箱が苦手な中学年を対象に行ってきたが、本年度はコロナ感染症対策として中止とした。

2 延岡市スポーツフェスタ

- 6年生を対象に本年度から実施する予定であったが、コロナ感染症対策として中止とした。

3 体力向上の取組

- 例年取り組んでいる「延岡市なわとび大会」であるが、本年度はコロナ感染症対策として中止とした。

III 研究部の歩み

1 本年度研究主題

健やかな心と体を育み、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方
～探求的・協働的な学びのある指導の工夫を通して～

2 研究の基本的な考え方～探求的・協働的な学びのある体育科学習とは

延岡市小体連では、探求的・協働的な学習を以下のように捉えている。

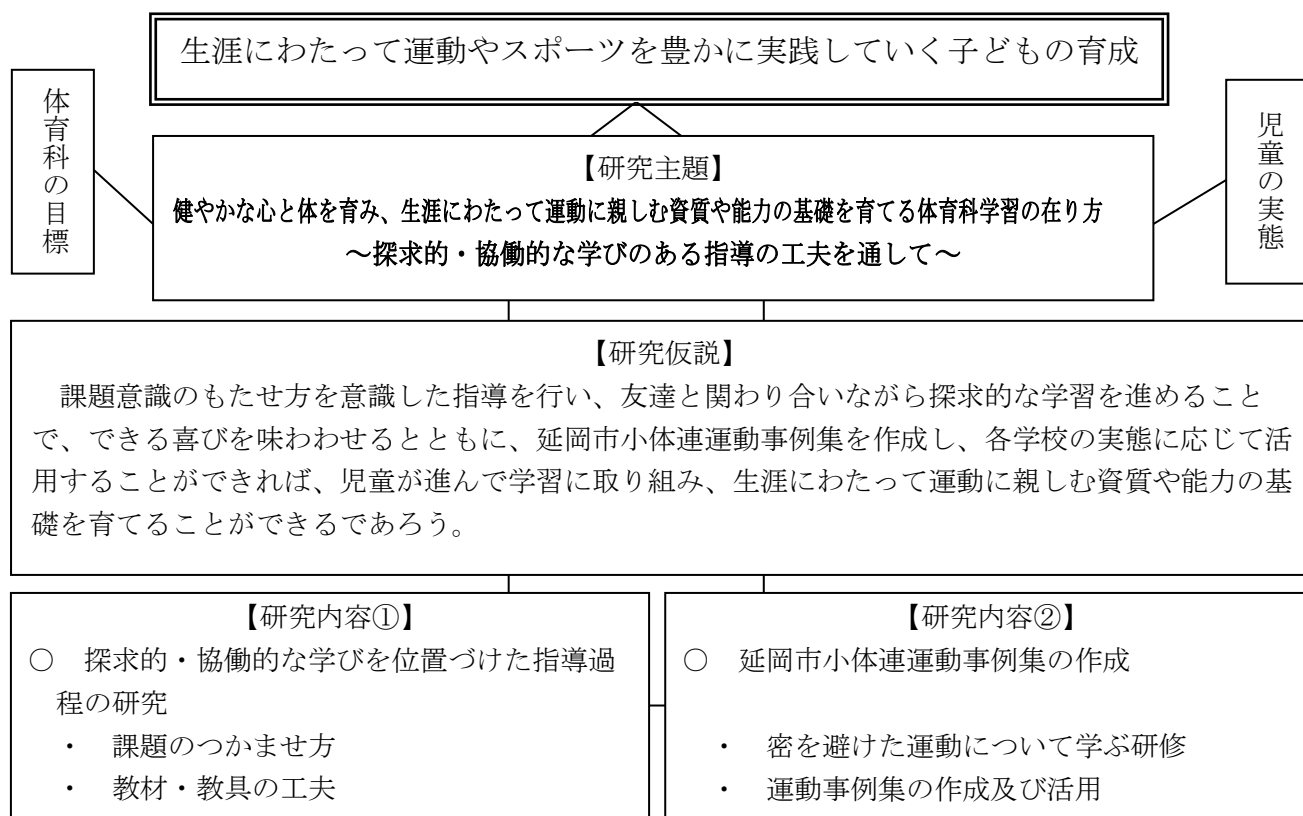
○ 探求的な学習とは

運動やスポーツの楽しさや健康の意味及びそれらの価値をふまえ、運動や健康についての自らの課題に気づき、その課題解決に向けて試行錯誤を繰り返しながら学びを進めること

○ 協働的な学習とは

運動・スポーツや健康について、自らの課題の解決に向けて児童同士、児童と教師、さらに児童と知識がかかわり合いながら、話し合ったり、教え合ったりして学びを深めていくこと

3 研究の構想（研究の仮説、研究内容）



4 研究の実際

（1）授業研究会「探求的・協働的な学び」を意識した授業づくり

令和2年12月11日（金）に授業実践を行い、研究仮説の検証を行った。

領域	単元名	学年	授業者
ゲーム	タッチラグビー	3 学年	T 1：南方小学校 田爪 鉄平 教諭 T 2：南方小学校 村上 直季 教諭

中学年のゲームは、低学年のゲームを踏まえ、ゲームの楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができるようにし、高学年のボール運動の学習につなげていくことが求められる。また、運動を楽しく行うために、自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、規則を守り誰とでも仲良く運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることなどをできるようにすることが大切である。本単元「タッチラグビー」では児童の実態を考慮し、守備側はタッチをして相手の動きを止めたり、球形のボールを使用したりすることで、ねらいとする動きを身に付けることができるようにした。

なかの段階では、新たな作戦としてクロスパスの動きがあることを児童に知らせ、その動きをチームごとに練習させた。児童は作戦を成功させるために、主体的にコミュニケーションを取りながら動きの確認を行っていた。本時では2回のゲームを設定し、それぞれのゲームを始める前にチーム内で作戦を考える時間を設けた。作戦ではワークシートと作戦ボードを活用させ、ワークシートには、既習の作戦を項目ごとに並べおき、それらの中から選択できるようにしたり、動きを図で表現できるようにしたりするという工夫を行った。また、作戦ボード上にマグネットを用意し、それを操作させることで、各人の動きを具体的に想像できる手立てを講じた。児童はこれらの教具を活用することで、作戦を成功させるための動きについて話し合ったり、図に示したものと自らの動きを比較してチームの課題に気付いたりするなど、探究的・協働的な学びをすることができた。

（２）延岡市小体連運動事例集の作成について

[illegible][illegible]

【資料5】リズムダンスで準備運動を行う様子

5 研究の成果（○）と課題（●）

- 探究的・協働的な学びを生む教具の在り方を見出すことができた。
- 新しい作戦の練習をする時間、作戦を考える時間、ゲームを通して作戦の有効性を検証する時間を十分に確保することで、ボールを持つ人と持たない人の動きについて、協働的に考える児童の姿が見られた。
- 延岡市小体連運動事例集を作成し、配付することで、コロナ禍でも実施可能な運動アイデアについて提案することができた。
- 自分の動きを客観的に捉え、改善するための手立てについては今度検討が必要である。
- 延岡市小体連運動事例については継続的に作成・発信をする必要がある。

IV まとめ

コロナ禍の中、子どもたちに何をさせてよいのかを模索しながら取り組んできた。各校の先生方から、「水泳の代わりに何をさせればよいのか。密にならない体育はどうすればよいのか。」などの声が挙がってきた。延岡市小体連で、リズムダンスや体づくり運動の動画を作成し、各校に配付して、リズムダンスや体づくり運動に取り組んでみてはどうかを提案した。今後も様々な運動例を作成し、延岡の子どもたちの体力向上に努めていきたい。

昨年度までは、6年生を対象にした「陸上教室」を実施していたが、本年度から新たな取組として6年生を対象にした「延岡市スポーツフェスタ」を実施する予定であった。子どもたちが様々なスポーツに触れ、運動の楽しさを感じ取れるよい機会だと考える。来年度の実施に向けて、延岡市小体連で意見を出し合いよりよいものにしていきたい。